トラストネットワークはボランティアが皆様の声や情報をお届けするミニコミ紙です。
本紙カラー版を https://www.setagayatm.or.jp/trust/pub/pdf/tn88.pdf にてご覧下さい。

…ボランティアがつくるニュースレター…

トラストネットワーク

発　行…トラスト通信ボランティア
問合せ…(一財)世田谷トラストまちづくり
〒156-0043 世田谷区松原　6－3－5
Tel: 03-6379-1620　Fax: 03-6379-4233
https://www.setagayatm.or.jp/

No. 88　　2020 年　9 月

次太夫堀公園内 里山農園 の開園

（所在地：世田谷区喜多見５丁目－５）

世田谷区立次太夫堀公園が一部拡張され、2019 年 7 月 1 日に、里山農園が開設されました。その後、世田谷トラストまちづくりにより運営されています。

人にも生きものにもやさしい“教育・福祉農園”として、次の三つのコンセプトを基本とする活動を始めています。

1　地域の人が愛着をもって育てる畑
2　障害がある方、そうでない方も一緒に楽しみ、活動できる畑
3　自然が持つ力を活かして、生きものも共存できる生物多様性豊かな畑

定例活動に参加して

本紙はこのような活動に関心を持ち実際に作業に参加して、状況を取材しました。

7 月 22 日午前 9 時半から活動は開始されました。参加者は、(一財)世田谷トラストまちづくりの職員を含み 19 名でした。

88 号の目次

里山農園・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
日本原産の野菜ワサビ・・・・・・・・・・・2
万葉の小径　烏山川緑道を訪ねて・・・・・3
上祖師谷五丁目花の木市民緑地・・・・・・5
かわらばん・・・・・・・・・・・・・・・・6

当日の活動予定は、次の通りでした。

① 立ち枯れした六条大麦刈り取り
② 畑全体に追い肥・害虫駆除
③ ラッカセイ・ネギなどの土寄せ
④ トマト・カボチャなどの誘引、麻縄による支柱固定
⑤ 夏野菜の収穫（エダマメ、ミニトマト、ピーマン、ナス）
⑥ 園内ハーブで虫除けスプレー用防虫剤づくり（デモンストレーション）

作業に着手

農園は歩道に囲まれ、約 50 ㎡と思われる畑が 2 面あり、それぞれに農作物が植えられています。

ところが新型**コロナウィルス**感染対策のために、長期間定例活動が休止されていたため、除草作業が行われませんでした。その結果、畑全体が雑草で覆われていました。トマト、カボチャ、キュウリ、ナスなどは雑草より大きいので、その存在が分かりますが、イチゴ、ラッカセイなどは雑草の中、ネギに至ってはその存在を確認するのに一苦労でした。この状況に対して、当日予定外の作業でしたが、最初にラッカセイ周辺と、

その他の部分の２グループに分かれ、全員で除草作業に着手し、完遂しました。

除草作業を終え、ほっと一息

休憩を二回挟んで最後にエダマメ、トマト等を収穫し予定通り 11 時半に作業を終了しました。引き続き園内で当日採取したローズマリー、ミント、ヨモギなどを用いた虫除けスプレー用の防虫剤づくりの実演が行われ、12 時前に終了、散会しました。

今回のような**コロナ禍**による影響は他の緑地などではどんな対策を・・・帰途ふと思いつき心配になってきました。

「いや心配いりません。フラワーランドでは、除草・水やりなどは常に必要ですから、みんなで当番制でちゃんとやっていますよ」というボランティアの方の声も聞こえてきました。

里山農園も、冒頭の基本三目標の達成を目指した活動を with Corona で持続されることを期待します。

園内のハーブを使った「虫除けスプレー用防虫剤づくり」のデモンストレーション

日本原産の野菜　ワサビ　について

ワサビは数少ない日本原産の野菜で、日本食には欠かすことのできない香辛料です。寿司や蕎麦をはじめ、和食ブームに乗って世界的な広がりを見せています。そして、2018 年 3 月には「静岡県わさび栽培地域」が国連食糧農業機関（FAO）が認定する世界農業遺産になりました。

ワサビの学名は、かつて *Wasabia japonica Matsumu* でした。これを見ると、ワサビが日本の植物であることが分かります。

ワサビは日本各地の渓谷に自生する多年草です。ワサビについて書かれた書物はかなり古く、平安時代中期（918 年）の『本草和名』になまえが記述され、葉がアオイに似ていることから「山葵」の字が当てられたと記されています。

そして、慶長（1596～161 と 5 年）の前半に山に自生しているワサビを移植して栽培するようになりました。その場所は日本でも清流といわれる静岡県の安倍川の上流、静岡市葵区有東木（うとうぎ）だとされています。有東木は標高 600 メートルほどの斜面にある集落で、そこには「わさび栽培発祥の地」の石碑があります。この地域は、沢の水量が豊富で、水温も年間 12～13 度と安定しているのでワサビ栽培には最適の環境です

ここで栽培したワサビを、1607 年に駿府城で隠居していた徳川家康に献上したところ、家康はその味のすばらしさに感激して、ワサビを門外不出の「御法度品」に指定してしまいました。そのため、その後かなりの期間、栽培ワサビが他の地域に広がっていくことはありませんでした。

現在、ワサビといえば湯ヶ島をはじめ伊豆半島の産地が有名ですが、ワサビ栽培は有東木よりも 130 年余り遅い 1744 年に始まりました。しかし、伊豆のワサビは伊東港から 1 日で江戸に運べるので伊豆の特産品として広く普及するようになっていきました。　（『日本の品種はすごい』（中公新書）を参考にしました）

万葉の小径　烏山川緑道を訪ねて

世田谷線宮の坂駅から徒歩数分の、宮の坂一丁目一番地付近の烏山川緑道内に万葉の小径があります。緑道が一般道と交わる所に入口を示す「万葉の小径」と記された標示があります。

そこから中へ入ると、緑道の中心に巾一メートル半程の小径が続き、その両側に大小さまざまな植栽があります。季節により、それぞれの花が咲いている様子が窺えます。両側の植え込みの中に十メートル程の間隔で樹名板が結ばれ、結ばれた樹木の名称と樹木に関わる歌とその作者名が記されています。

ここで万葉集と植物、樹木等の関係に触れてみましょう。七世紀飛鳥時代から、八世紀奈良時代までの約百三十年間の歌およそ四千五百首が収められた日本最古の歌集が万葉集です。歌の題材は様々な分野に亘っています。その中で植物にかかわりのある歌は約千五百首、詠み込まれている植物は約百六十種になります。

歌と植物の関係を植物園によって広める機会を増やすために全国的に万葉植物園が開設されています。東京近辺では国分寺万葉植物園がその一例です。烏山川緑道の万葉の小径はこれら大規模植物園を極めて小型に圧縮したものと言えるでしょう。

今号では、この小さな万葉の小径にある植物に、どの歌が結びつけられているかを紹介し、若干の説明をいたします。植物の種類は十種類程度で、主なものを取り上げ、植物の名称の五十音順にしたがって並べてあります。本稿作成につき『国分寺市の万葉植物』(国分寺市教育委員会編)を参照させていただきました。

残念ながら取材が開花時期とずれていたため、再度美しい花の時期に訪れたいと想います。

あじさい

紫陽花(あじさい)の　八重咲く如く　八つ代にを
いませ我が背子(せこ)　見つつ偲(しの)はむ　　橘諸兄(たちばなもろえ)

(あじさいの花が　八重に咲くように、幾代にも
お栄えください。わが君よ。私はその繁栄を願っています。)

言問(ことと)はぬ　木すら紫陽花　諸茅(もろち)らが
練(ねり)の村戸(むらこ)に　あざむかえけり　　大伴家持(おおとものやかもち)

(物言わぬ木でさえも、紫陽花や諸茅などの
一筋縄でいかない心に、あざむかれたということです。)

あしび(あせび)

磯のうへに　生(は)ふる馬酔木(あしび)を　手折(たお)らめど
見すべき君が　ありと言わなくに　　大来皇女(おおくのひめみこ)

(磯の上に生えている馬酔木の花を手折っても、その花を
見せるべきあなたはいない。いるとは誰も言ってくれません)

磯影の　見ゆる池水　照るまでに
咲ける馬酔木(あしび)の　茅らまく惜しむ　　伊香真人(いかごのまひと)

(岩影が映っている池の水が照り輝くほどに咲いている
馬酔木の散ってしまうのはおしいことだ。)

え（えのき）

わが門の　榎の実もり食む　百千鳥
千鳥は来れど　君ぞ来まさぬ

詠人不詳

（わが家の門の榎の実をもいではついばむ鳥の群、鳥は来るのだが　君は一向に来てくれない。）

かへるで（かえで、いろはもみじ）

吾が宿に　もみつかへるで　見るごとに
妹をかけつつ　恋ひぬ日はなし

田村大嬢

（わが家の紅葉した楓を見るたびに、あなたのことを思い、逢いたいと思わぬ日とてありません。）

ささ

小竹の葉は　み山もさやに　さやげども
われは妹思ふ　別れ来ぬれば

柿本人麻呂

（笹の葉は山全体にさやさやとそよいでいるけれど私は一筋に妻を思う。別れてきたのだから。）

やまぶき

山振りの　立ち儀ひたる　山清水
酌みに行かめど　道の知らなく

高市皇子

（山吹の花がまわりを飾り立てている山の清水を汲みに行きたいが、道が分からない。）

山吹は　日に日に咲きぬ愛しと
吾が思ふ君は　しくしく思ほゆ

大伴池主

（山吹の花は日に日に咲き開いています。ご立派な方と思っているあなたのことを、日ごろから尊敬しています。）

山吹は　撫でつつ生はさむ　ありつつを
君来ましつつ　挿頭したりけり

置始長谷

（この山吹はこれからも大切に育てましょう。このまま咲いているからこそ、あなたが髪飾りにして下さった。）

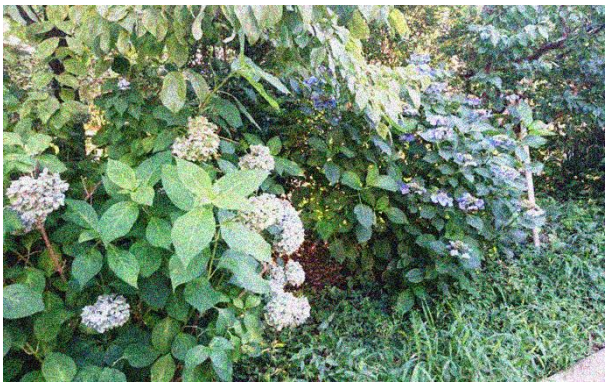
↙ 谷中橋近辺からの通路

上祖師谷五丁目花の木市民緑地

新しい市民緑地の紹介

大通りから離れた住宅地の中の上祖師谷五丁目公園の隣に 382 ㎡の小さな樹木畑が市民緑地としてオープンしたのは 2019 年 9 月、小さいながらも四季折々に多くの花や実を楽しむことができます。

身近に観察できる高さの木も多く、中に円弧を描くように園路があるので、樹の名前などを調べながら歩いてみてはいかがでしょうか。



この辺りは以前は豊饒な農作地帯で、江戸時代までは天領だったそうです。秋にたわわに実った柿の実を眺めながら、古い時代に思いをはせ、近隣の神明社や滝坂道に足を延ばしてみるのもよいかもしれません。

柿の実の行方

秋を迎え柿の実が色づくと、よく目に付くようになります。甘柿、渋柿、採ってよいのかしら・・・・？みなさん気になることでしょう。

これらの果実の収穫品は他の市民緑地でもいろいろ工夫されて、取り扱われています。その例を紹介しましょう。

イベントとして参加者を募集し、収穫作業や緑地の整備を行い、収穫品を参加者へ分配するお土産式が「喜多見五丁目竹山」「上用賀五丁目いらか道」の場合で、前者は筍、後者は柿、柚子等が対象です。

福祉作業所へ加工品の材料として「北烏山四丁目梅林」の梅、「上用賀五丁目いらか道」の柚子が提供されています。

実施例がまだ少ないため、共通のルールがなく、個別に取り扱われているのが現状です。詳しくは「世田谷トラストまちづくり」までお問い合わせください。

市民緑地の現況

現在世田谷区には、本紙で紹介しているものを入れ、16 ヶ所の市民緑地があります。全体の紹介は(一財)世田谷トラストまちづくりのホームページ(下記 URL)に掲載されています。ぜひ近くの市民緑地に足をお運び下さい。

https://www.setagayatm.or.jp/trust/map/cgs/index.html

また次の URL には全市民緑地のパンフレットが掲載されています。併せてご活用されることを期待します。

https://www.setagyatm.or.jp/trust/green/cgs_sytem/pdf/cgs_guide.pdf

植物の驚異のコミュニケーション

言葉を使ってコミュニケーションができるのは人間だけといわれています。コミュニケーションには、言葉だけではなく「におい」も利用されています。とくに動物では、パートナーを選択する際に「におい（フェロモン）」が重要な働きをしています。この「におい」によるコミュニケーションは動物だけではなく植物（樹木）でもみられるそうです。

40 年ほど前に、アフリカのサバンナで面白い出来事が観察されました。

キリンはサバンナアカシアという木の葉を食べます。しかし、アカシアにとってみればこれはたいへん迷惑な話です。よく調べてみると、アカシアの葉を食べているキリンは、数分すると別の木に移っていきます。それも、すぐ隣の木に移るのではなく、数本の木をとばして 100 メートルくらい離れた木の葉を食べ始めたのです。どうしてこんな行動をするのか、さらに詳しく調べてみました。

すると、意外な事実が判明しました。最初に葉を食べられたアカシアは、キリンがやってきたことを仲間に知らせるために、警報として**「エチレン」**のガスを放出します。それで警告を受けた近くの木は、葉を食べられないように有毒物質の準備をします。そうしたことを知っているキリンは、警報ガスの届かない離れた場所の木までいくのだそうです。さらに、場合によっては、風に逆らって警報の届かない風上の木に移動することもあるそうです。

このように、樹木は自分を守る力を持っています。　例えばナラは、苦くて毒性のある**「タンニン」**を樹皮や葉に送ることができます。**タンニン**が送られてくると樹皮や葉はまずくなり、食べた虫は逃げるか、時には死んでしまうこともあります。

ヤナギも同じような働きをもつ**「サリシン」**という物質をつくりだします。この**「サリシン」**は人間には無害です。それどころか、ヤナギの樹皮を煎じたお茶には、頭痛を和らげて熱を下げる効果があることが分かりました。このヤナギがつくる**サリシン**の有効成分を生かしてつくられるようになったのが、頭痛薬、鎮痛薬の**アスピリン**だそうです。

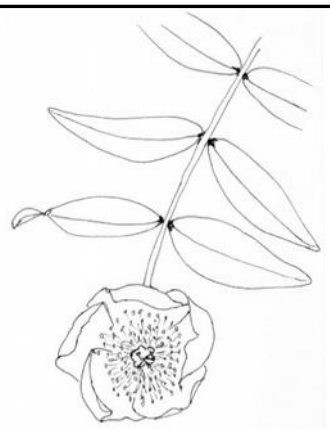
（『樹木たちの知られざる生活』（ハヤカワ文庫）を参考にしました）

いきものさんぽ

キンシバイ

オトギリソウ科

初夏に黄色い雄蕊が密生した五弁の花を枝垂れるように次々と咲かせます



せたがやトラスト彩草会

編集後記　３月末に 87 号を発行後、４月に新型コロナ感染症対策に緊急事態宣言が出され、取材に関するボランティア活動が出来なくなりました。6 月には解除となり、徐々に取材が可能となりました。７月に編集会議を開催し、9 月には規模は縮小しても 88 号を発行することを決意しました。その結果２ページ減で本号を発行出来ました。

88 号作成に関わったメンバー

大泉定雄　奥田雅子　片寄正史　北畠明子
須藤礼子　須永澄子　野武一郎　宮下正雄